

九州の農業経営の動向 2020



本資料は、九州における農業経営体の農業所得等の状況について、平成30年農業経営統計調査（営農類型別経営統計、経営形態別経営統計）の結果を中心に図表化して解説したものです。

令和2年12月
九州農政局統計部

目 次

1 農業経営を取り巻く環境	
(1) 九州の気象	1
(2) 農業物価指数の動向	3
(3) 市況（青果物・畜産物）	5
2 農業経営（個別経営）の平均的なすがた	
(1) 所得の推移と地域別の比較	6
(2) 収益性の推移	7
3 農業を主とする経営（個別経営）の収益性	
(1) 主副業別経営体の農業所得及び農業粗収益	8
(2) 主業経営体平均と全経営体平均との比較	9
4 営農類型別にみた収益性の動向（個別経営）	
(1) 農業所得	10
(2) 1時間当たり農業所得	11
5 水田作経営の収益性（個別経営）	
(1) 1経営体当たり農業所得の推移	12
(2) 作付規模別の比較（都府県）	13
6 畑作経営の収益性（個別経営）	
(1) 1経営体当たり農業所得の比較	14
(2) 主な作目別の農業所得の推移	
ア いも類	15
イ 茶	16
ウ さとうきび	17
7 野菜経営の収益性（個別経営）	
(1) 1経営体当たり農業所得の推移	18
8 酪農経営の収益性（個別経営）	
(1) 1経営体当たり農業所得と粗収益の推移	19
(2) 1頭当たり乳量と生乳販売単価等の推移	20
(3) 飼養頭数規模別農業所得と1頭当たり労働時間等（都府県）	21
9 肉用牛（繁殖牛）経営の収益性（個別経営）	
(1) 1経営体当たり農業所得の推移	22
10 肉用牛（肥育牛）経営の収益性（個別経営）	
(1) 1経営体当たり農業所得の推移	23
11 養豚経営の収益性（個別経営）	
(1) 1経営体当たり農業所得の推移	24
12 法人経営体（組織経営）の収益性（全国）	
(1) 1経営体当たり農業所得	25
(2) 営農類型別の農業所得	26
(3) 水田作経営の規模別農業所得	27
統計データ（平成30年）	
I 個別経営	
1 経営形態別経営統計	29
2 営農類型別経営統計	33
II 組織法人経営	
1 経営形態別経営統計	49
2 営農類型別経営統計	50
調査の概要等	52

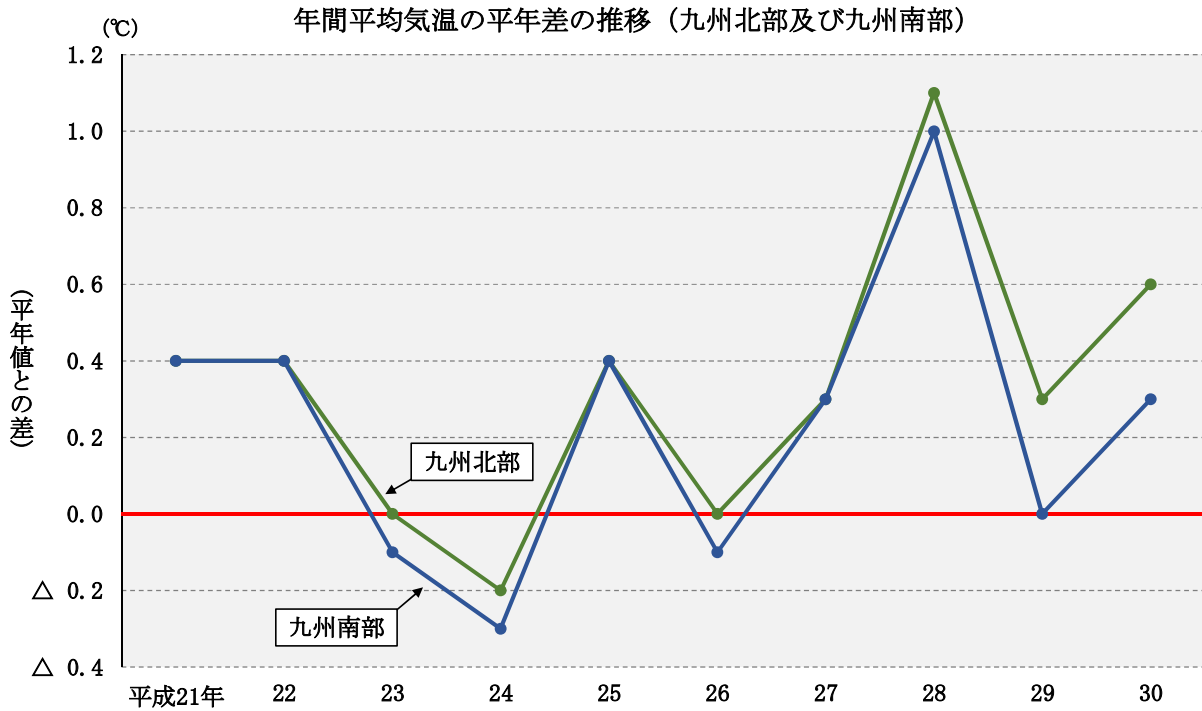
1 農業経営を取り巻く環境

(1) 九州の気象

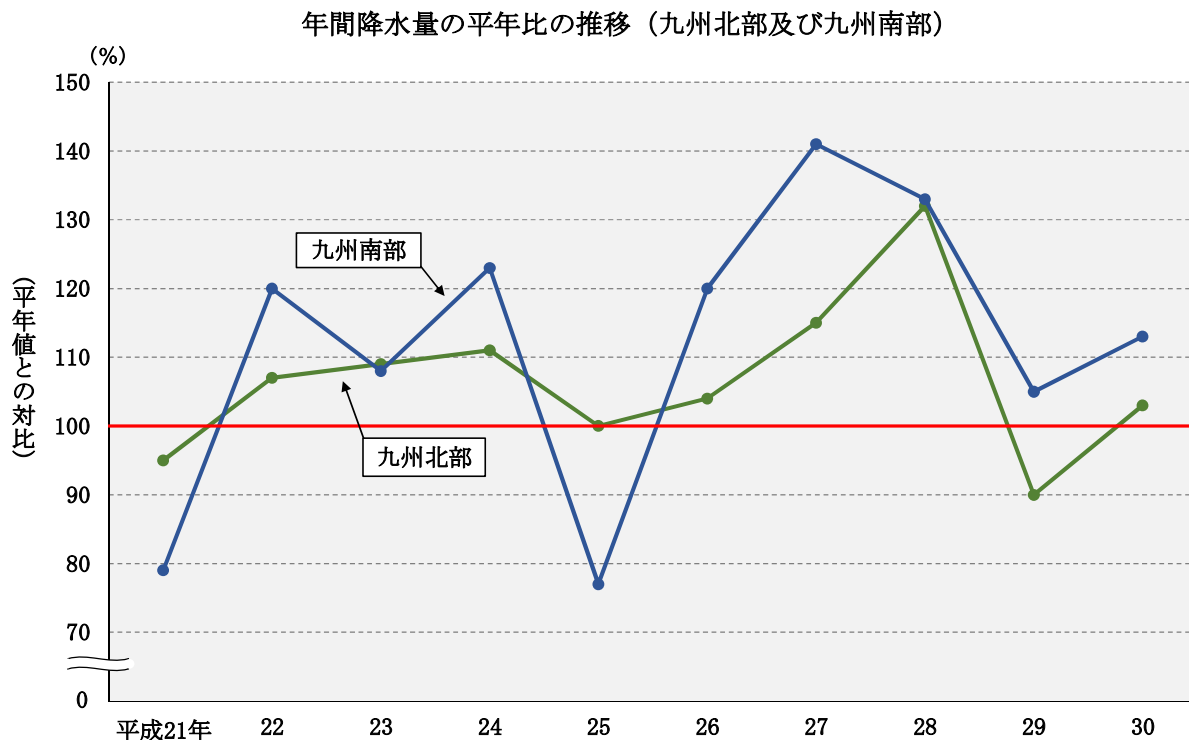
- 九州の近年10年の年平均気温は、地球温暖化、都市化の影響、自然変動等により、平年値を上回っている年が多い。
- 近年10年の年間降水量についても、平年値を上回っている年が多い。

※ 平年値は1981-2010年の30年間の観測値の平均を基に算出されたものです。

九州北部地方は、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県及び山口県。九州南部地方は、宮崎県及び鹿児島県。



資料：気象庁「気象観測データ」

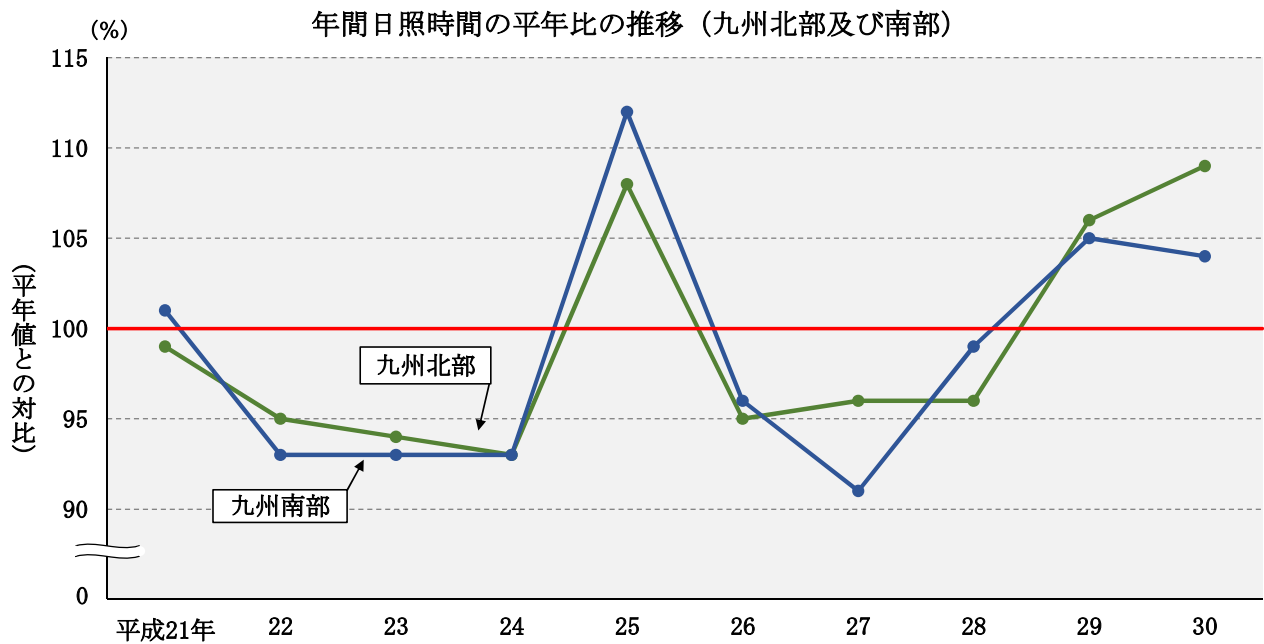


資料：気象庁「気象観測データ」

1 農業経営を取り巻く環境

(1) 九州の気象 (つづき)

- 九州の近年10年の日照時間は、平年を下回っている年が多い。
- 平成30年に九州に接近した台風の数、平成21年以降最も多い。



資料：気象庁「気象観測データ」

(九州に接近した台風数)

	平成21年	22	23	24	25	26	27	28	29	30
九州北部地方	1	2	4	6	3	4	4	3	4	8
九州南部地方	1	1	6	4	3	5	4	4	4	8

※ 「九州北部地方に接近」とは台風が山口県、福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、熊本県、「九州南部地方に接近」とは宮崎県、鹿児島県の薩摩地方、大隅地方、種子島・屋久島地方のいずれかの気象官署等から300km以内に入った場合をいいます。

資料：気象庁「気象観測データ」

(梅雨入りと梅雨明け)

		平成21年	22	23	24	25	26	27	28	29	30
九州北部地方	梅雨入り	6/3頃	6/12頃	5/21頃	5/30頃	5/27頃	6/2頃	6/2頃	6/4頃	6/20頃	6/5頃
	梅雨明け	8/4頃	7/17頃	7/8頃	7/23頃	7/8頃	7/20頃	7/29頃	7/18頃	7/13頃	7/9頃
	降水量平年比 (%)	121	111	119	138	72	87	102	117	67	110
九州南部地方	梅雨入り	6/2頃	6/12頃	5/23頃	5/30頃	5/27頃	6/2頃	6/2頃	5/24頃	6/6頃	6/5頃
	梅雨明け	7/12頃	7/20頃	7/8頃	7/23頃	7/8頃	7/16頃	7/14頃	7/18頃	7/13頃	7/9頃
	降水量平年比 (%)	51	163	135	168	77	135	209	147	91	128

※ 「梅雨の時期の降水量の平年比 (地域平年値)」は、全国の気象台・測候所等での観測値を用い、おおむね梅雨の期間に相当する6～7月の2か月間降水量の平年比 (%) を各地域で平均されたものです。

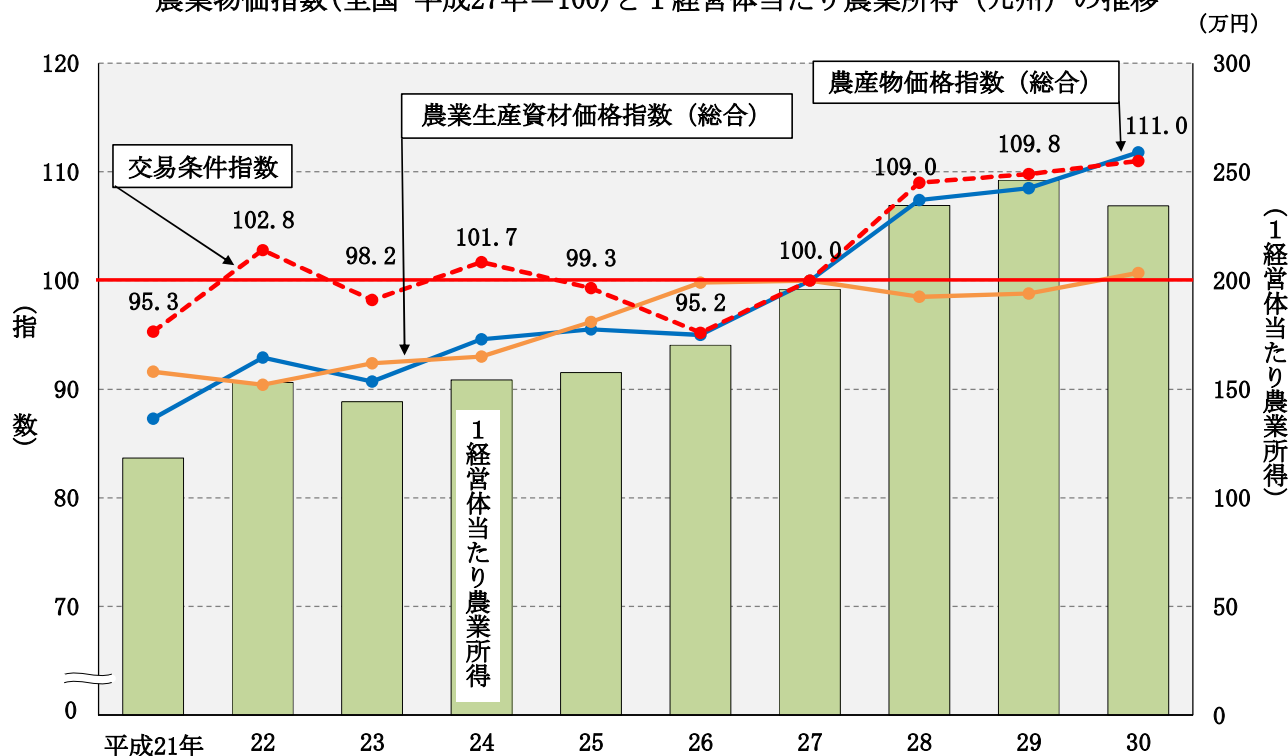
資料：気象庁「気象観測データ」

1 農業経営を取り巻く環境

(2) 農業物価指数の動向

- 農産物価格指数は平成27年以降4年連続で上昇。
- 「農業の交易条件指数」(農産物価格指数/農業生産資材価格指数×100)は、平成27年以降4年連続で上昇。
- 農業経営体の1経営体当たり農業所得は、農業の交易条件指数におおむね連動し、3年連続で上昇していたが、平成30年は前年に比べ減少。

農業物価指数(全国 平成27年=100)と1経営体当たり農業所得(九州)の推移



資料：農業物価統計、農業経営統計調査(経営形態別統計)

【解説】

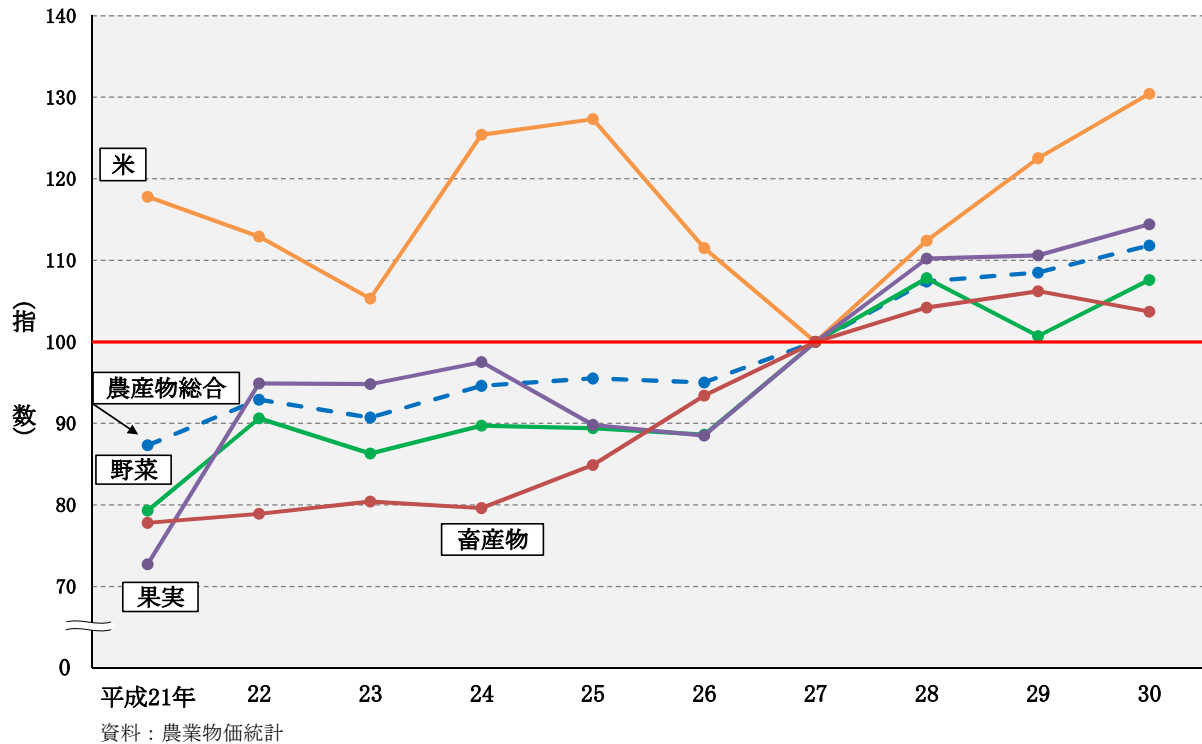
- ・農業物価指数は、農業における投入・産出の物価変動を測定するため、農業経営に直接関係ある物価を把握し、その結果を総合して指数化したもので、農産物価格指数と農業生産資材価格指数の二つがあります。
- ・「農業の交易条件指数」は、農産物価格指数(総合)を農業生産資材価格指数(総合)で除して計算されるもので、これが上昇すると経営環境が良くなっていることを示します。
- ・すなわち、「農業所得=農業粗収益(価格×生産量)-農業経営費(経費)」であることから、農業所得の動向は、農産物価格指数と農業生産資材価格指数の比である農業交易指数の動きとおおむね連動することとなります。

1 農業経営を取り巻く環境

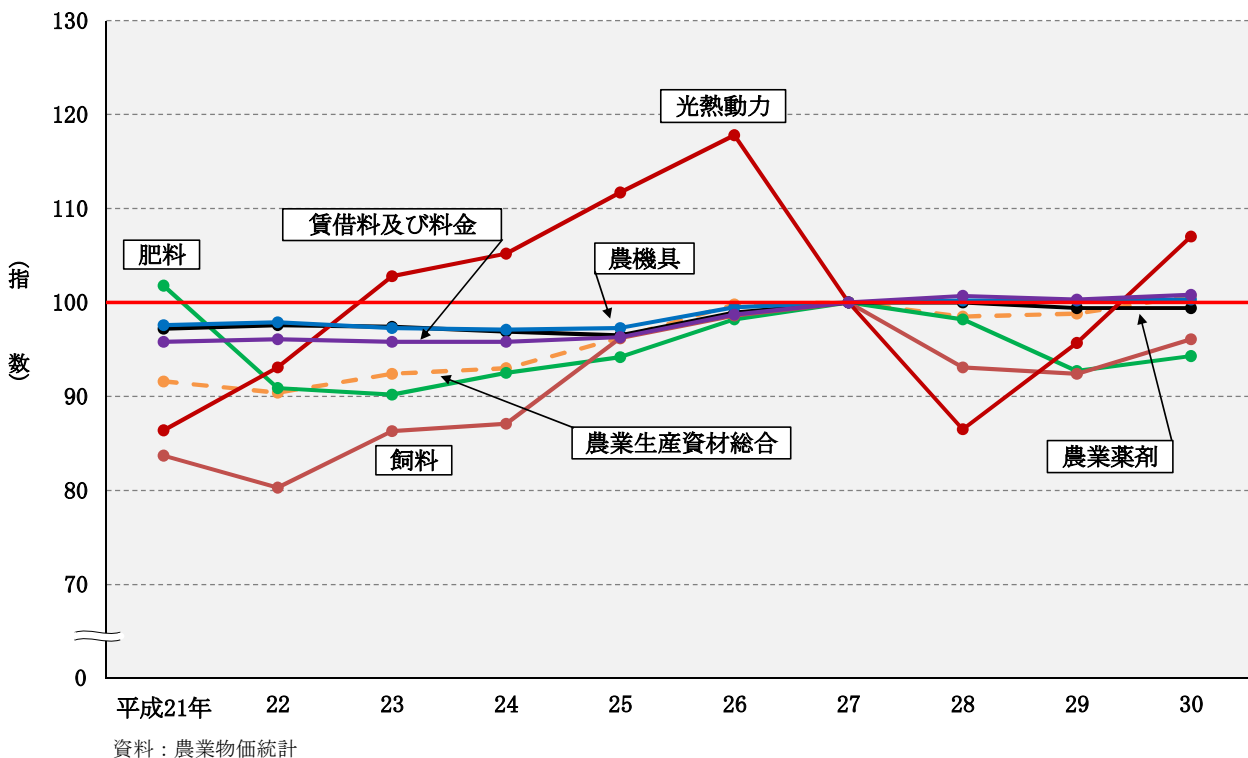
(2) 農業物価指数の動向 (つづき)

- 農産物価格指数は、畜産物は平成24年以降上昇していたが、平成30年は低下。米は平成28年から3年連続で上昇。
- 農業生産資材価格指数は、光熱動力が平成29年から原油価格高騰の影響で上昇。

農産物価格指数（全国）の推移（平成27年=100）



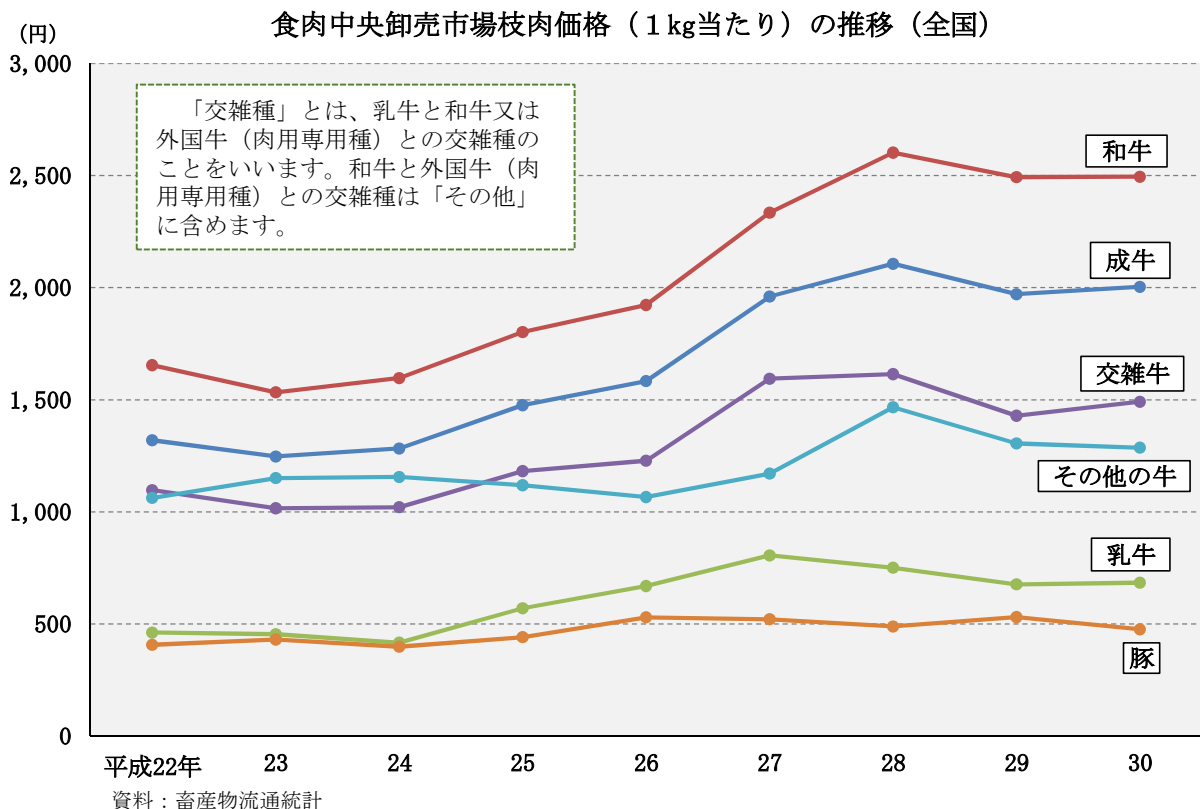
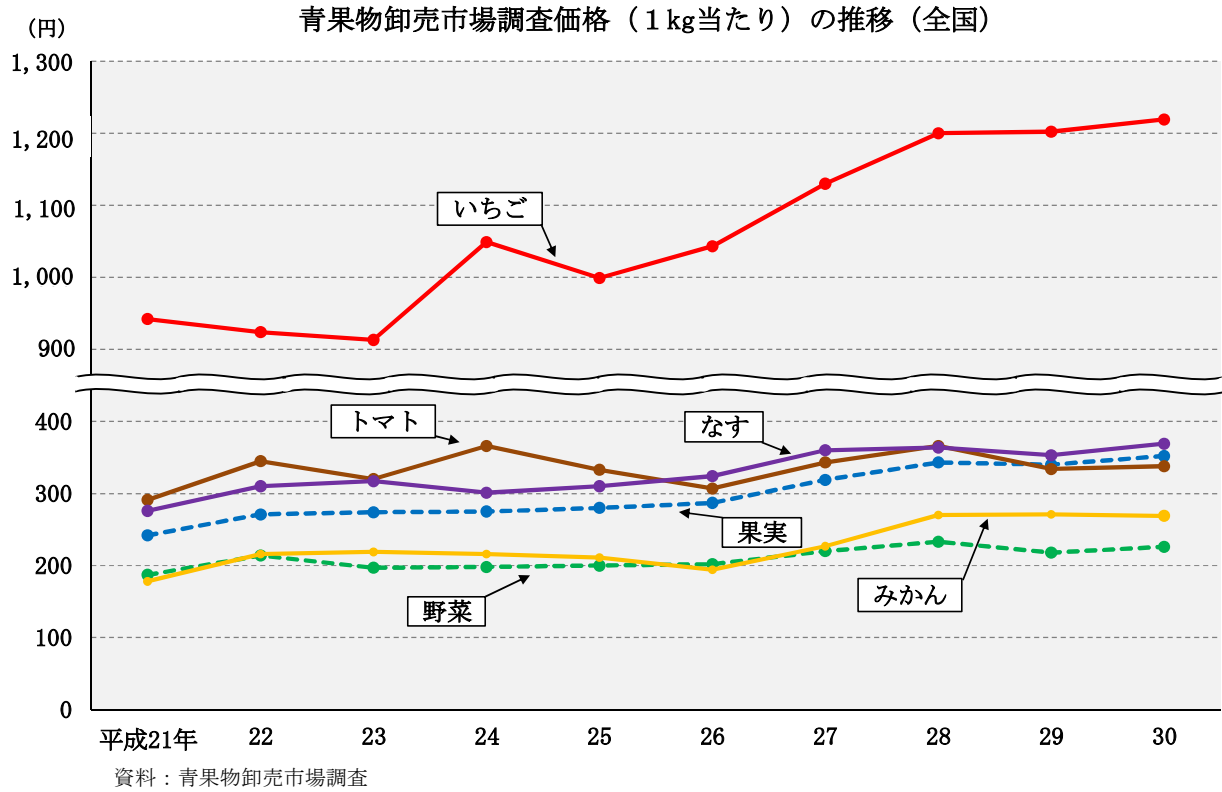
農業生産資材価格指数（全国）の推移（平成27年=100）



1 農業経営を取り巻く環境

(3) 市況（青果物・畜産物）

- 野菜、果実の卸売価格は、平成21年以降は上昇傾向。特にいちごは大幅に上昇。
- 食肉の枝肉価格は、平成28年までは上昇が続いたが、以降は横ばいで推移。



2 農業経営（個別経営）の平均的なすがた

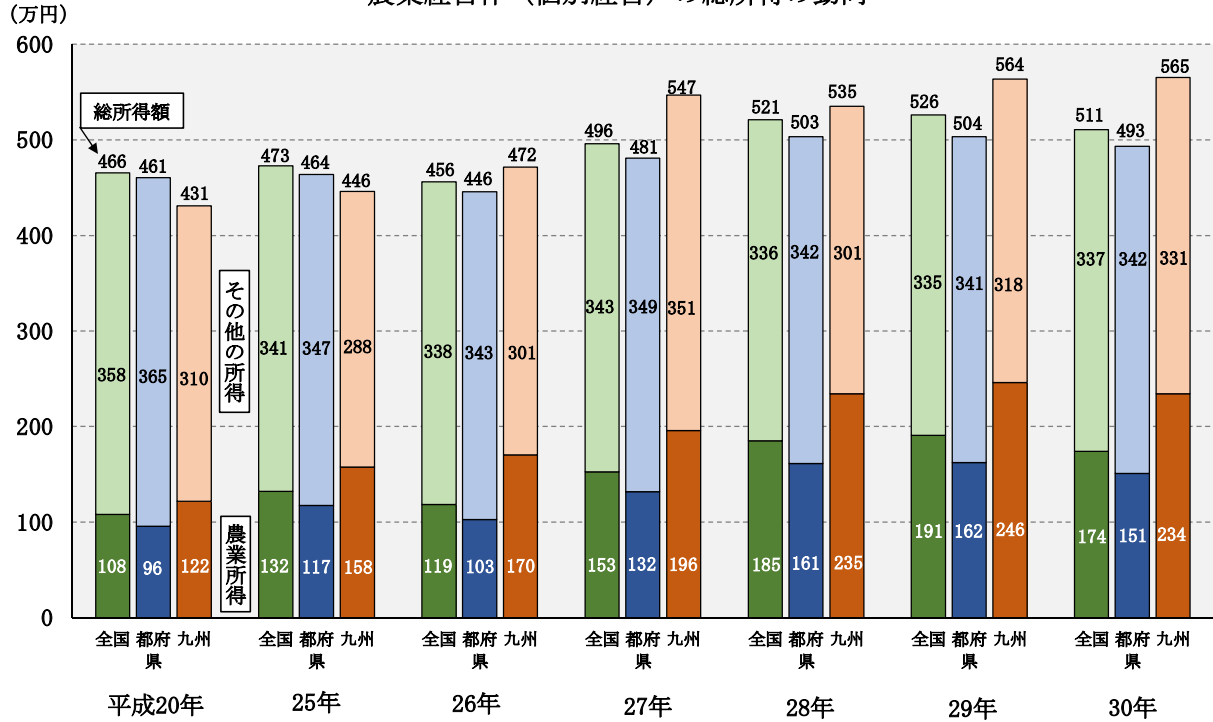
(1) 所得の推移と地域別の比較

○平成30年の九州の1経営体当たり農業所得は234万円で、全国の174万円を3割以上上回っている。

○九州の農業所得は近年増加傾向にあったが、平成30年はやや減少。

○九州は、北海道を除く農業地域別では最も高い農業所得。

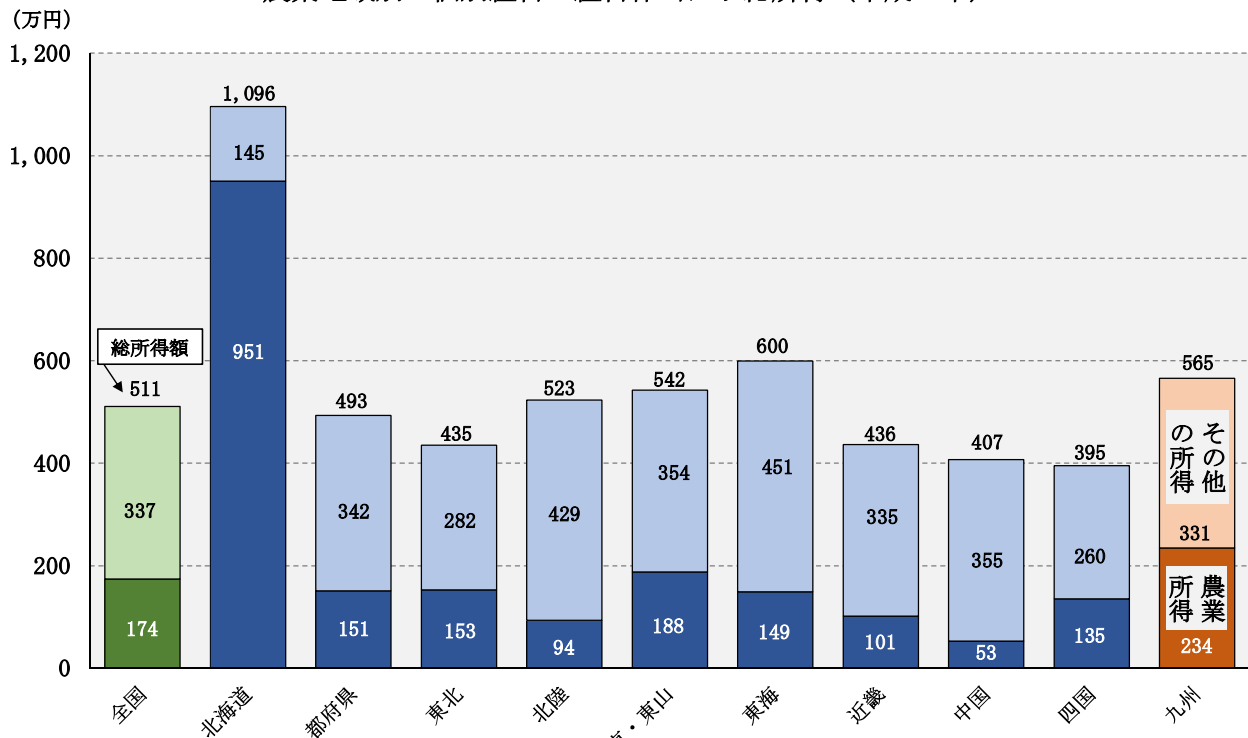
農業経営体（個別経営）の総所得の動向



資料：農業経営統計調査（経営形態別経営統計）

注：四捨五入のため総所得額と内訳の合計が一致しないものがあります。

農業地域別の個別経営1経営体当たり総所得（平成30年）



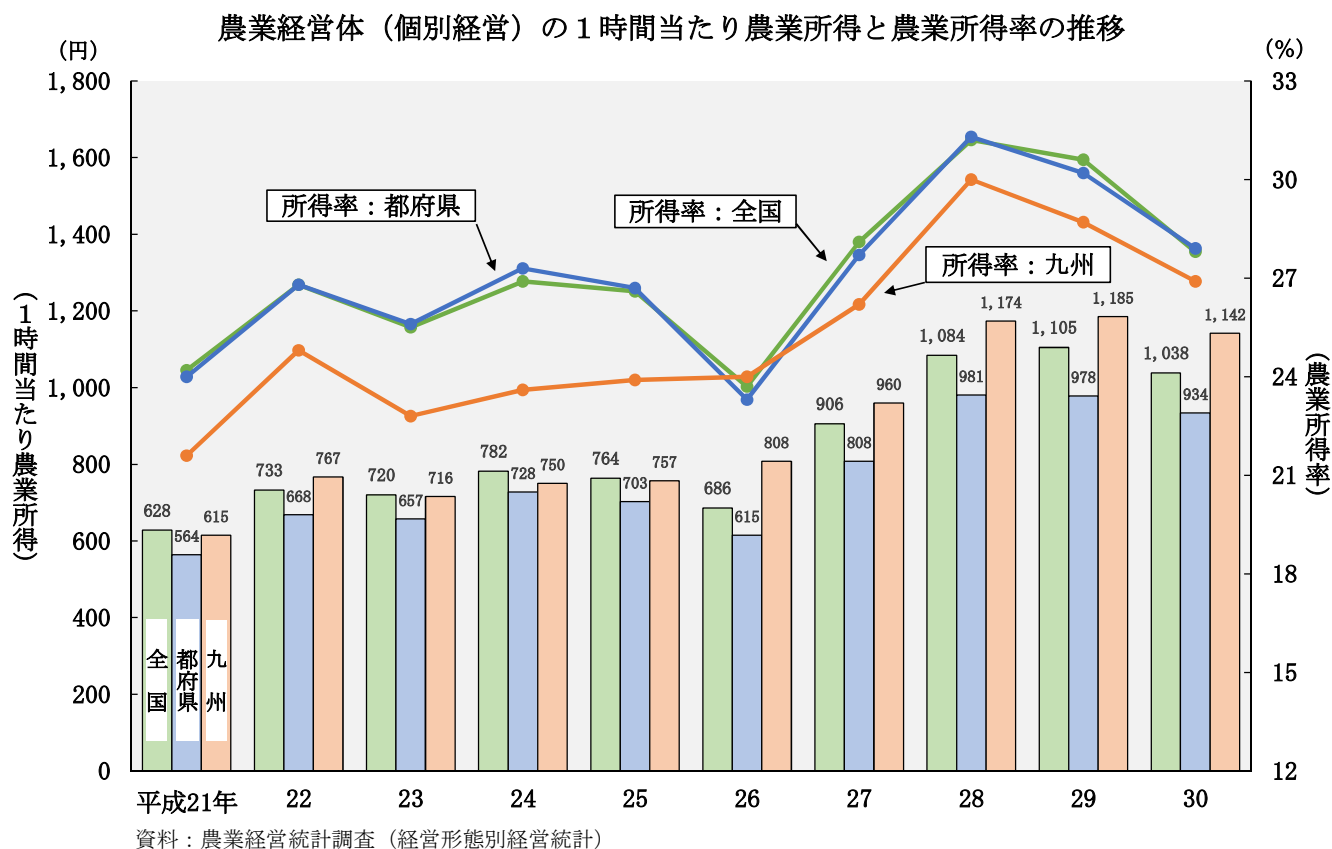
資料：農業経営統計調査（経営形態別経営統計）

注：四捨五入のため総所得額と内訳の合計が一致しないものがあります。

2 農業経営（個別経営）の平均的なすがた

(2) 収益性の推移

- 九州の農業所得率は2年連続で減少。平成20年代前半は全国との差が大きかったものの近年は同水準で推移。
- 平成30年の農業労働1時間当たりの農業所得は1,142円で、平成26年以降は全国及び都府県を上回って推移。



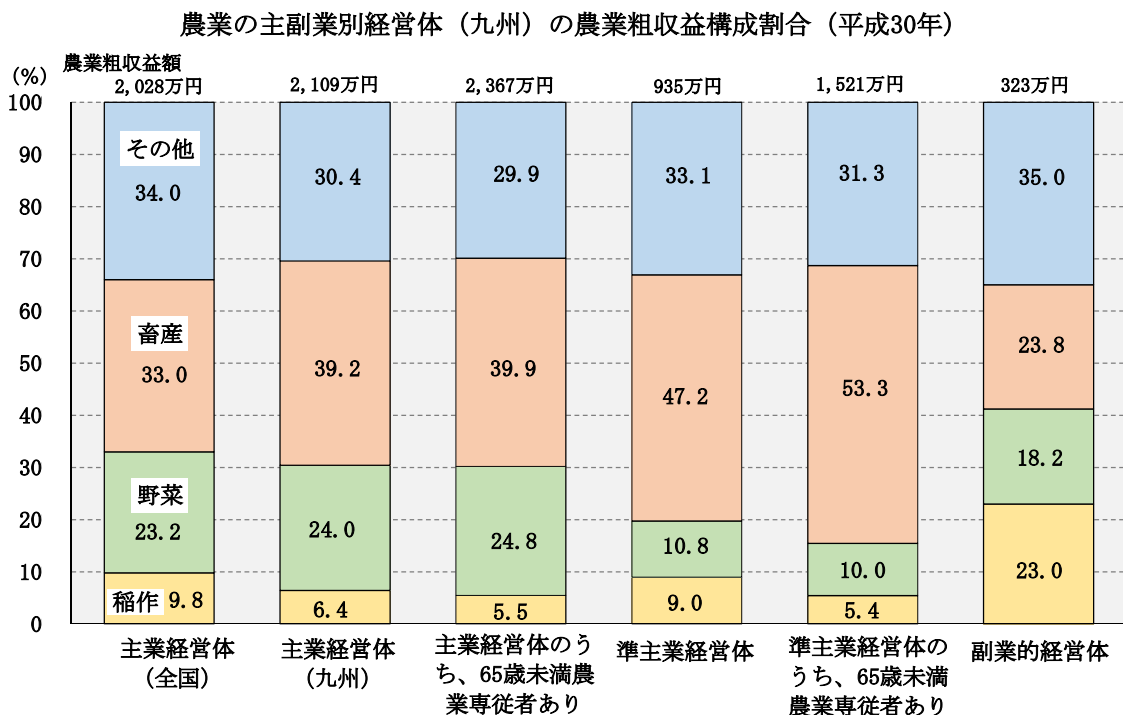
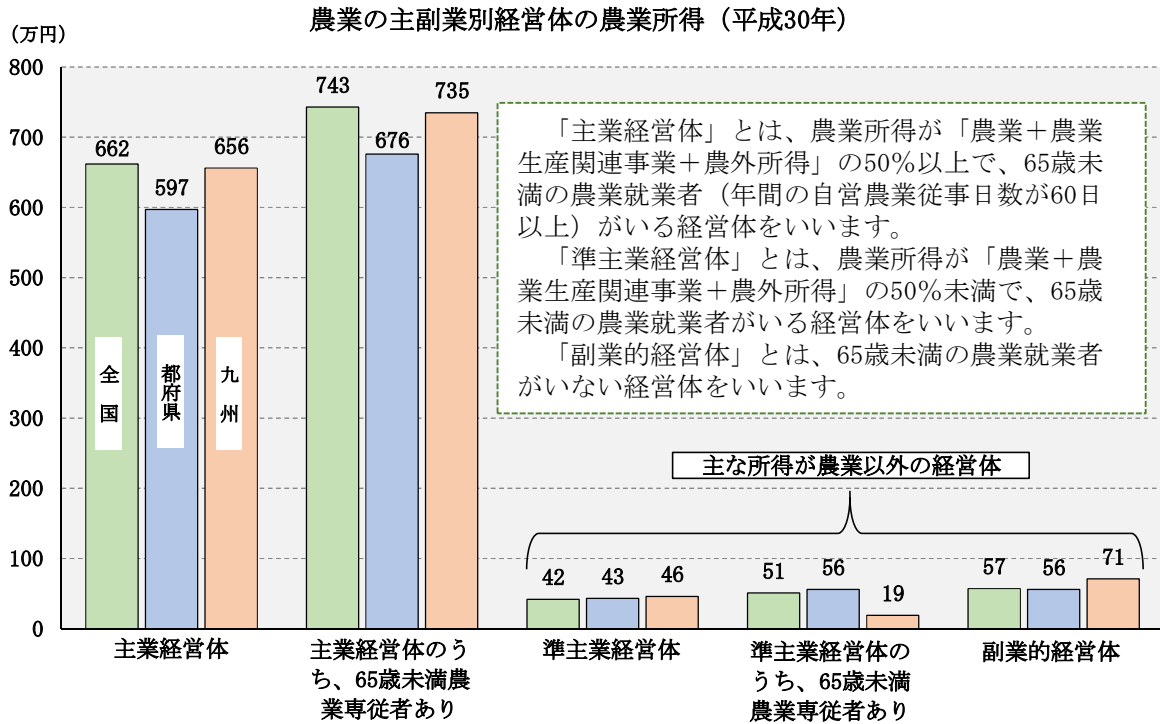
【指標の解説】

- ・ 「農業所得率」とは、農産物の売上（農業粗収益）に対する農家の手取り（所得）の割合を示す指標で、どのような営農部門であってもこれを高めていくことが重要です。
- ・ 「1時間当たり農業所得」とは、農業所得を投下した農業労働時間（家族）で除して計算したものです。今日の農業経営の在り方として、労働力の多投入による所得の確保ではなく、効率的な労働を行い労働収益性を高めていくことが重要であると考えられることから、家族経営の経営状況をみる場合のポイントとなる指標です。

3 農業を主とする経営（個別経営）の収益性

(1) 主副業別経営体の農業所得及び農業粗収益

- 九州の農業経営体のうち、農業所得を主な所得源とする主業経営体の農業所得は 656万円。
- 主業経営体のうち、65歳未満の農業専従者（農業に年間 150日以上従事する者）がいる九州の経営体の農業所得は735万円。
- 九州の主業経営体の農業粗収益の構成割合を全国と比べると、畜産、野菜が高く、稲作は低い。



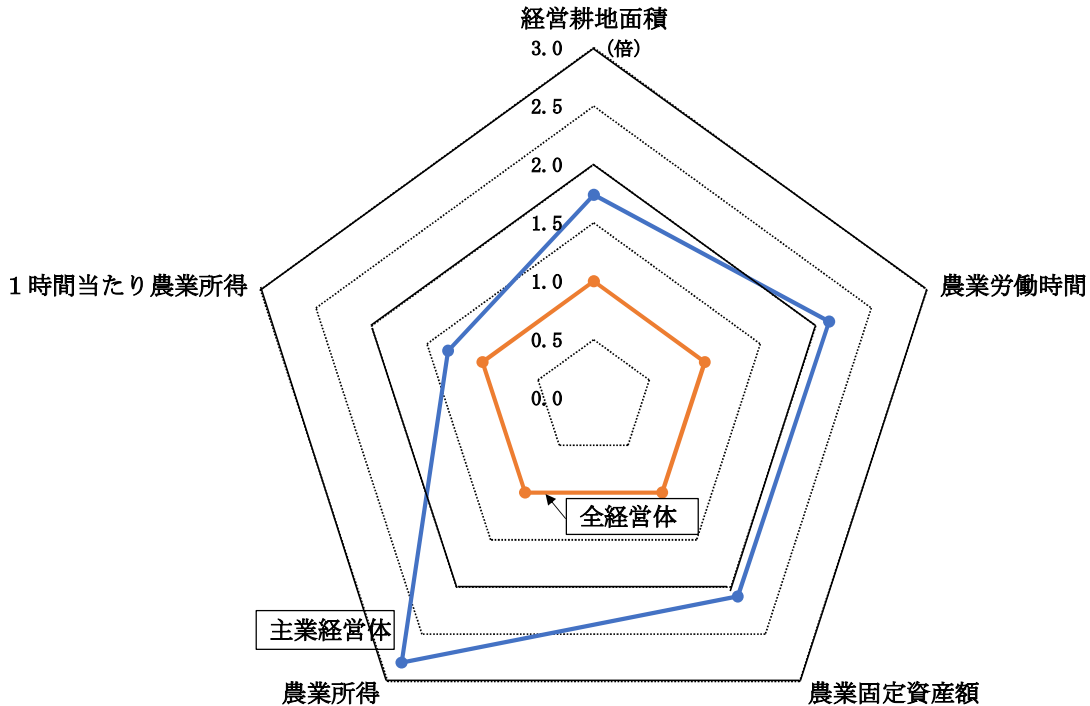
注：四捨五入のため合計値（100%）と内訳の合計が一致しないものがあります。

3 農業を主とする経営（個別経営）の収益性

(2) 主業経営体平均と全経営体平均との比較

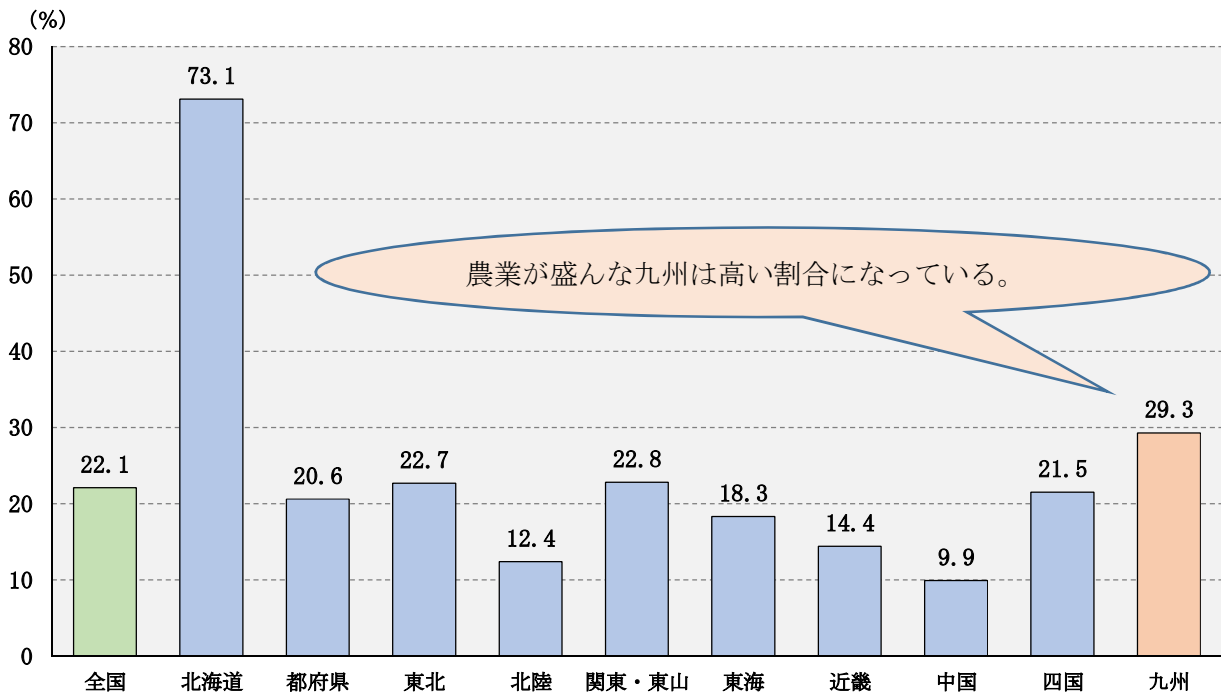
○九州の主業経営体を九州の全農業経営体平均と比べると、経営に約2倍の経営耕地面積、労働時間及び固定資産を投入し、成果として約3倍の農業所得を実現。

主業経営体平均と全経営体平均の経営比較（平成30年・九州）



資料：農業経営統計調査（経営形態別経営統計）

(参考) 農業地域別の主業農家の割合（平成27年）



資料：2015年農林業センサス

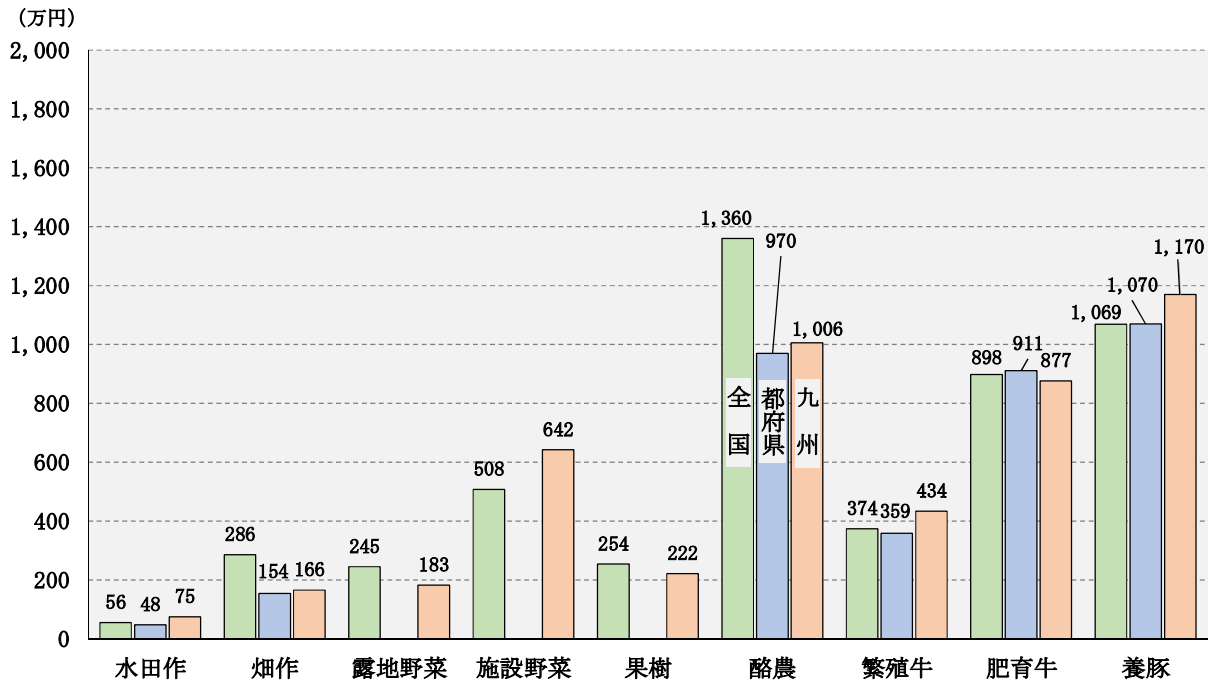
注：農林業センサスにおける販売農家に占める主業農家の割合

4 営農類型別にみた収益性の動向（個別経営）

（1）農業所得

- 1 経営体当たりの農業所得は、主業的経営体が多い畜産部門で高く、小規模な副業的経営体が多い水田作では低くなっている。
- 農業所得と労働時間の関係を見ると、畜産部門では労働時間に対する所得が比較的高く、他方、野菜作や果樹作では比較的低くなっている。

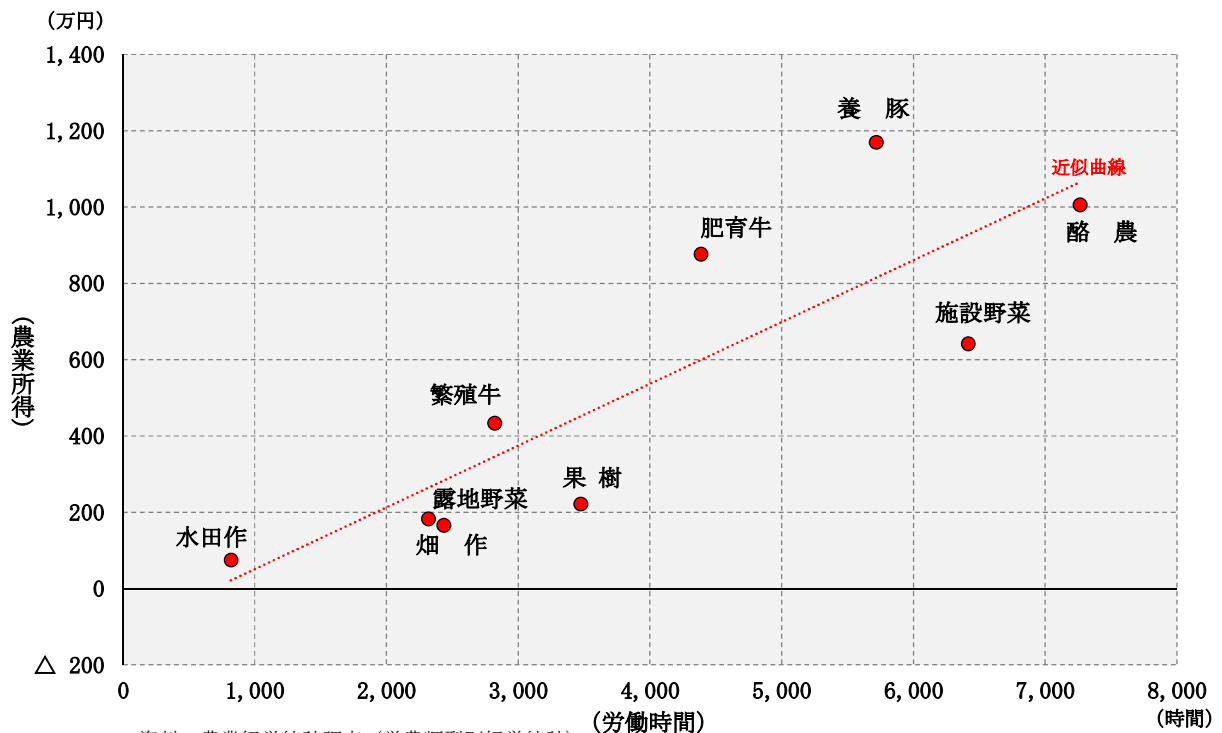
営農類型別の1経営体当たり農業所得（平成30年）



資料：農業経営統計調査（営農類型別経営統計）

注：露地野菜作、施設野菜作及び果樹作については、都府県の集計を行っていません。

営農類型別1経営体当たり農業所得と労働時間（平成30年・九州）



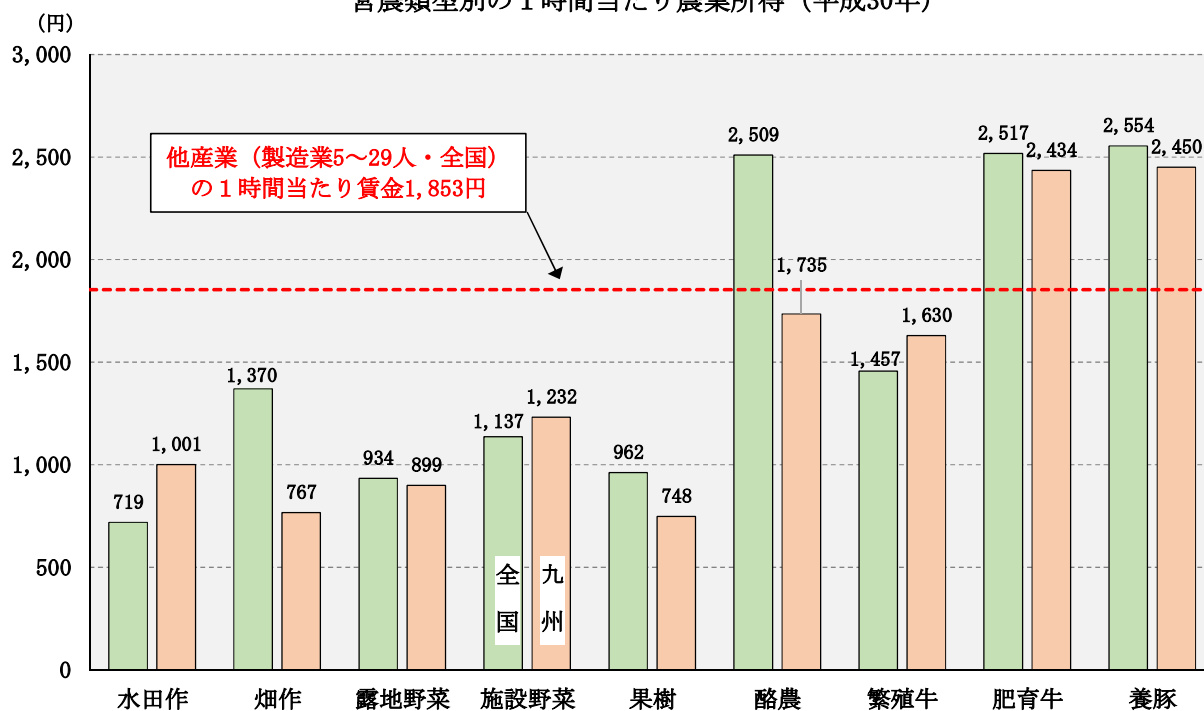
資料：農業経営統計調査（営農類型別経営統計）

4 営農類型別にみた収益性の動向（個別経営）

（2）1時間当たり農業所得

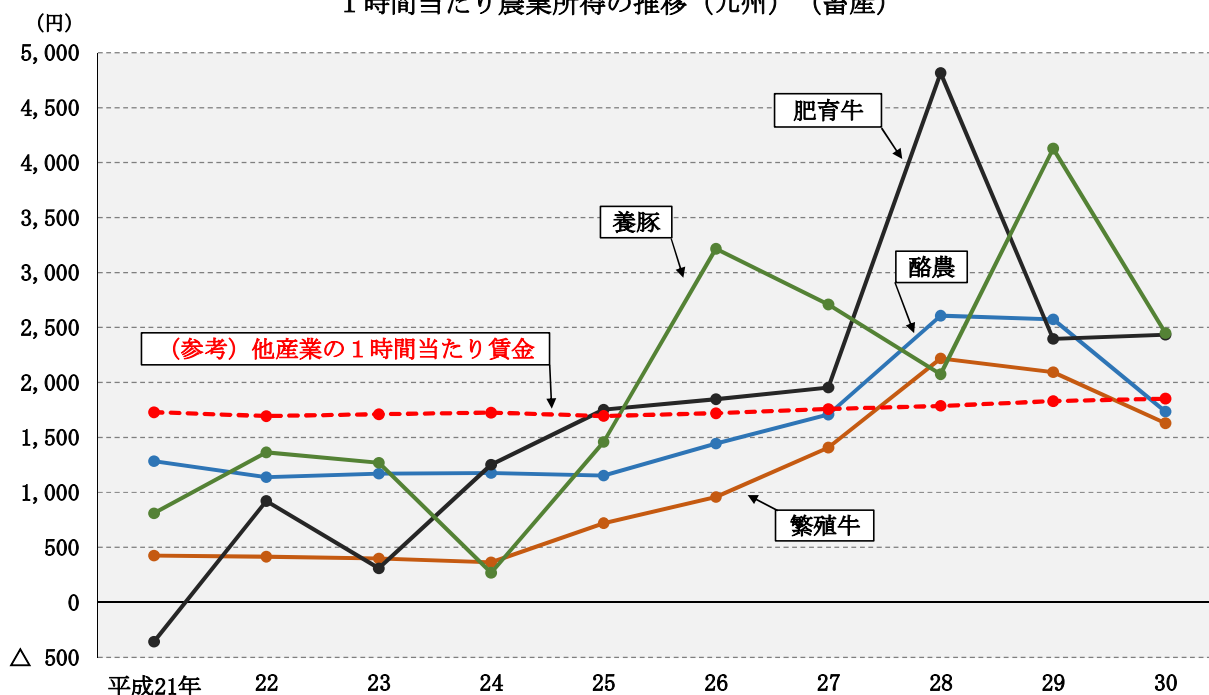
- 1時間当たり農業所得は、畑作、果樹、酪農を除き全国とほぼ同水準となっており、営農類型別に比較すると、規模拡大が進んでいる畜産部門で相対的に高くなっている。
- 平成30年の畜産部門の1時間当たり農業所得は、肥育牛と養豚が他産業従事者の賃金水準を上回っている。

営農類型別の1時間当たり農業所得（平成30年）



資料：農業経営統計調査（営農類型別経営統計）、厚生労働省「毎月勤労統計」（H30）

1時間当たり農業所得の推移（九州）（畜産）



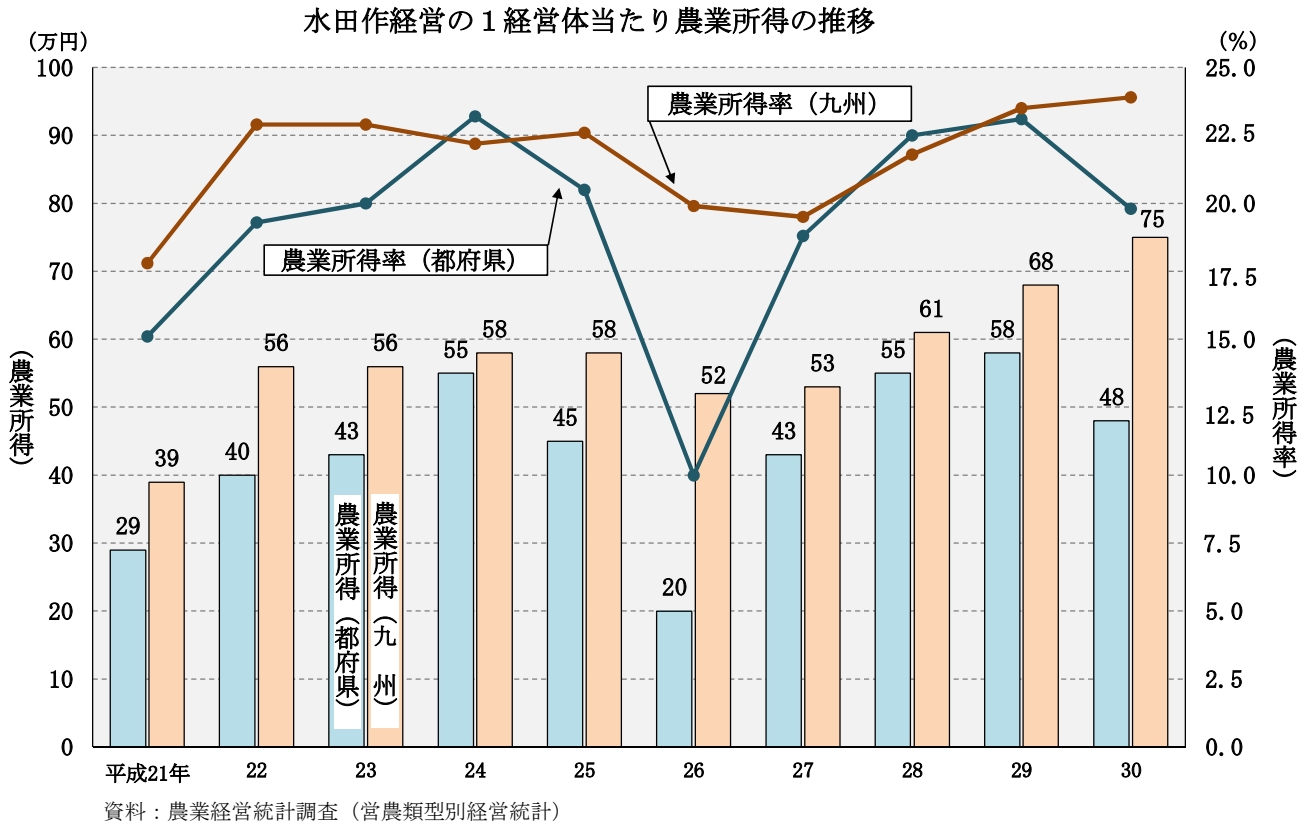
資料：農業経営統計調査（営農類型別経営統計）、厚生労働省「毎月勤労統計」

注：他産業の1時間当たり賃金は、製造業5～29人規模の全国の数値。

5 水田作経営の収益性（個別経営）

（1）1経営体当たり農業所得の推移

- 九州の水田作経営の1経営体当たり農業所得は、平成21年に比べ92%増加。
- 農業所得を都府県平均と比較すると、平成30年では九州が5割以上高い。
これは裏作麦の作付けにより耕地利用率が高いことが主な要因である。



水田作経営の経営耕地の利用状況（平成30年・1経営体当たり）

		都府県	九州	九州／都府県
経営耕地面積	a	220.2	243.2	1.10倍
	うち、田	198.4	219.6	1.11倍
作付延べ面積	a	195.9	275.8	1.41倍
	うち、田	186.6	264.5	1.42倍
耕地利用率	%	89.0	113.4	+24.4ポイント
	うち、田	94.1	120.4	+26.3ポイント

資料：農業経営統計調査（営農類型別経営統計）

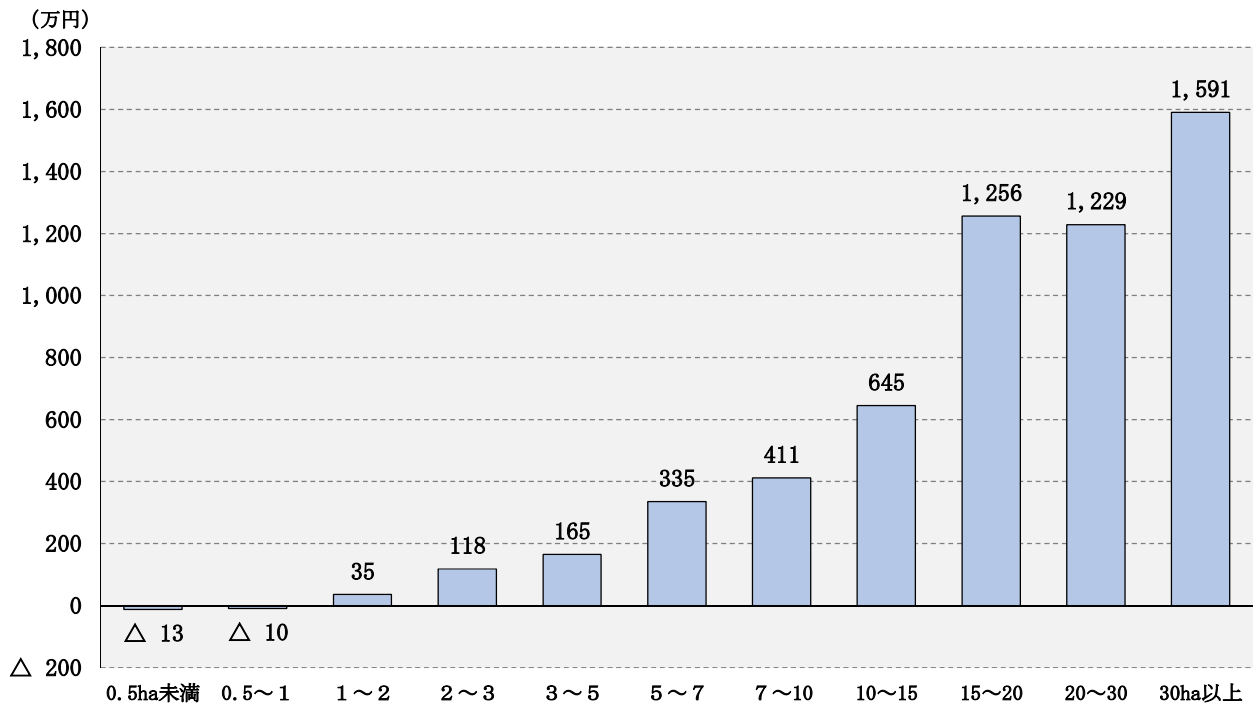
注：耕地利用率の「九州／都府県」の欄は、九州と都府県の差。

5 水田作経営の収益性（個別経営）

（2）作付規模別の比較（都府県）

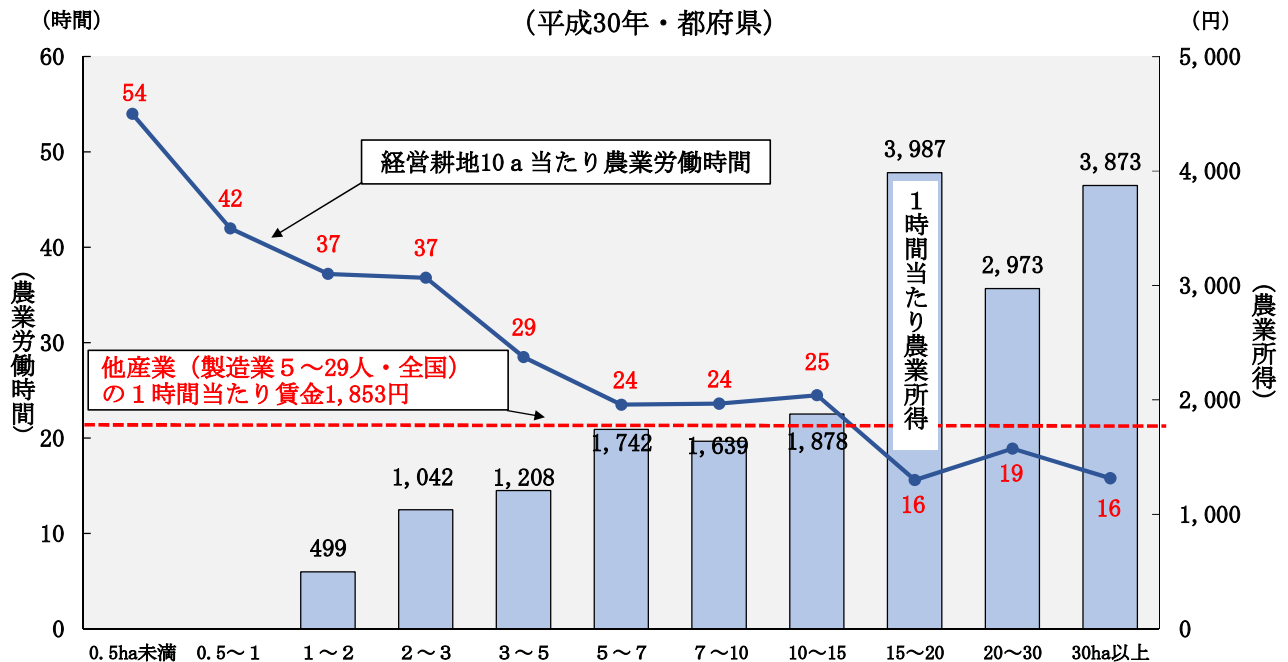
- 水田作経営のうち、稲作を主とする経営の農業所得は、作付規模が大きくなるのに伴い増加し、15～20ha規模では約1,300万円。
- 10a 当たり労働時間は規模が大きくなるのに伴い減少することから、1時間当たりの所得も大規模ほど高くなり、10ha以上で他産業従事者の賃金水準を上回っている。

水田作経営（稲作1位経営）の作付規模別農業所得（平成30年・都府県）



資料：農業経営統計調査（営農類型別経営統計）

水田作経営（稲作1位経営）の作付規模別労働時間と1時間当たり農業所得（平成30年・都府県）



資料：農業経営統計調査（営農類型別経営統計）、厚生労働省「毎月勤労統計」（H30）

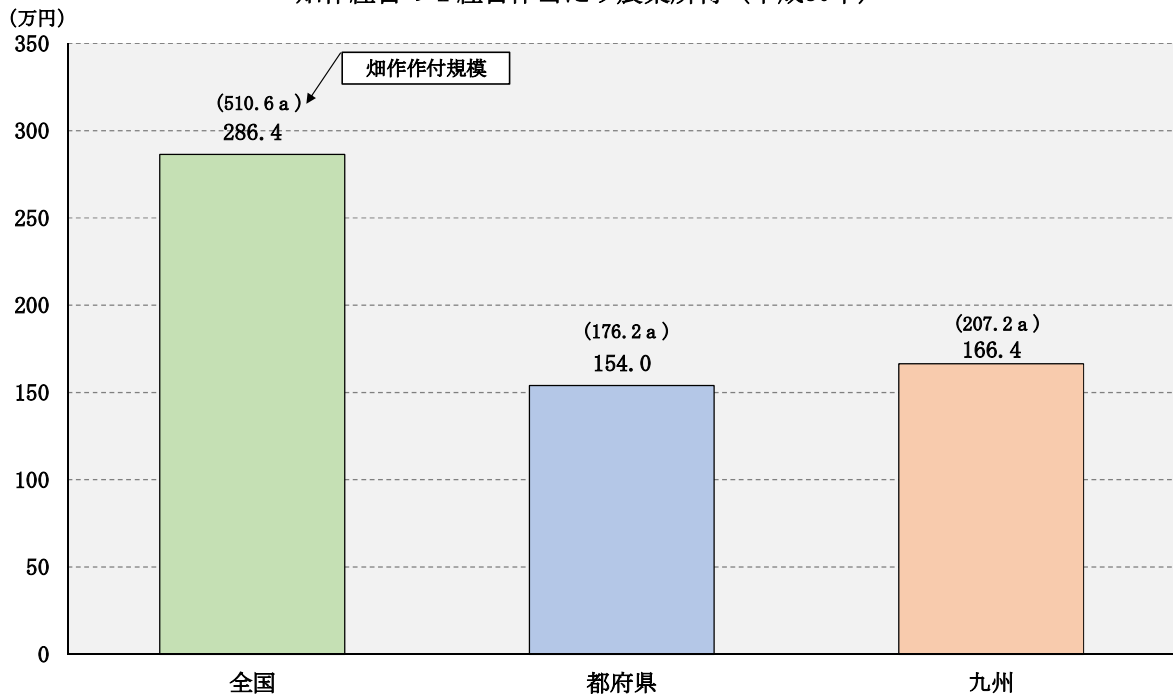
注：「0.5ha未満」及び「0.5～1」については、農業所得がマイナスのため非表示。

6 畑作経営の収益性（個別経営）

（1）1経営体当たり農業所得の比較

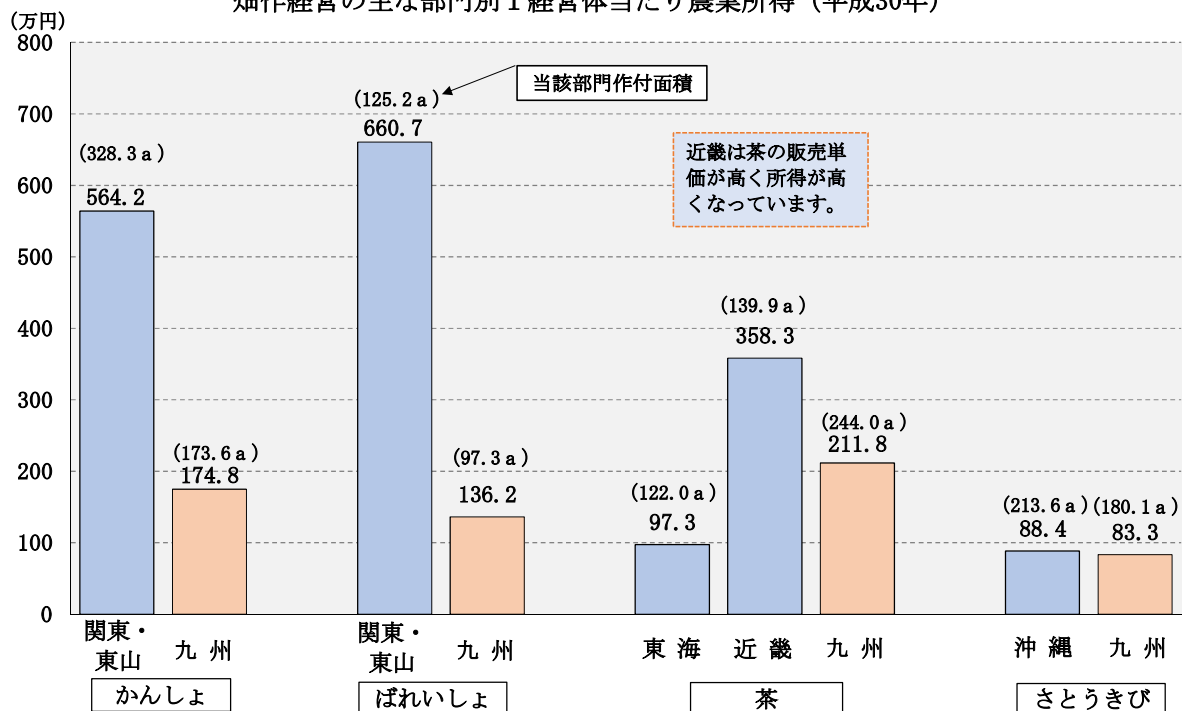
- 九州の畑作経営の農業所得は166万円で、全国を下回っているが、都府県と比較すると、作付規模及び農業所得とも上回っている。
- 九州の主な経営部門別農業所得は、茶作が211.8万円、かんしょが174.8万円となっており、他の農業地域と比較すると低い額となっている。

畑作経営の1経営体当たり農業所得（平成30年）



資料：農業経営統計調査（営農類型別経営統計）

畑作経営の主な部門別1経営体当たり農業所得（平成30年）



資料：農業経営統計調査（営農類型別経営統計）

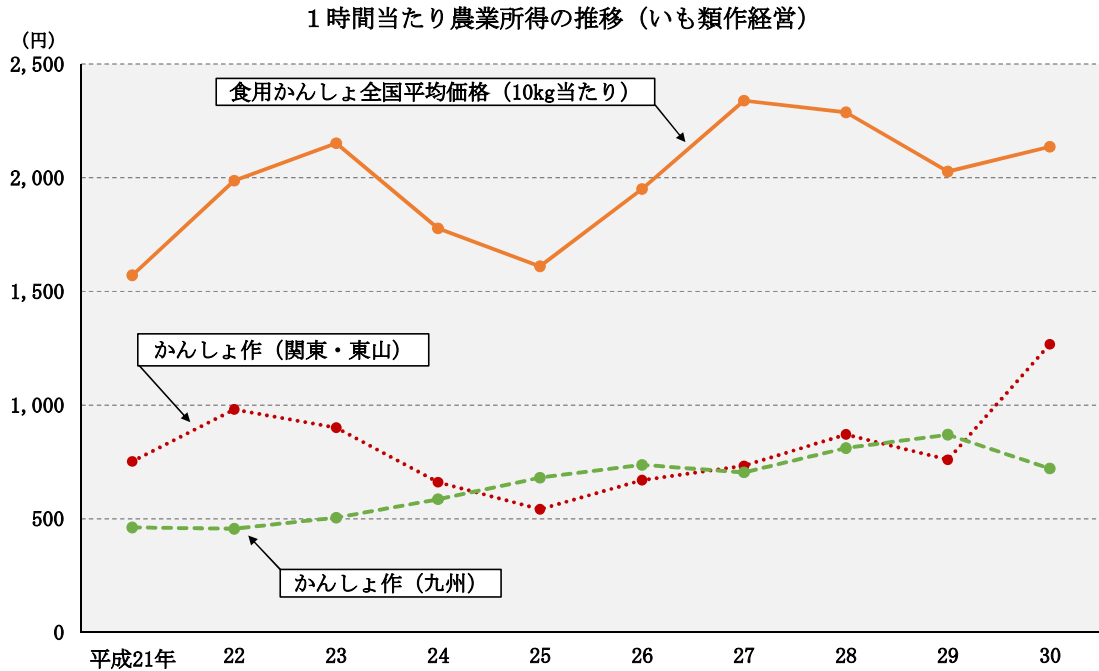
6 畑作経営の収益性（個別経営）

（2）主な作目別の農業所得の推移

ア いも類

・かんしょ

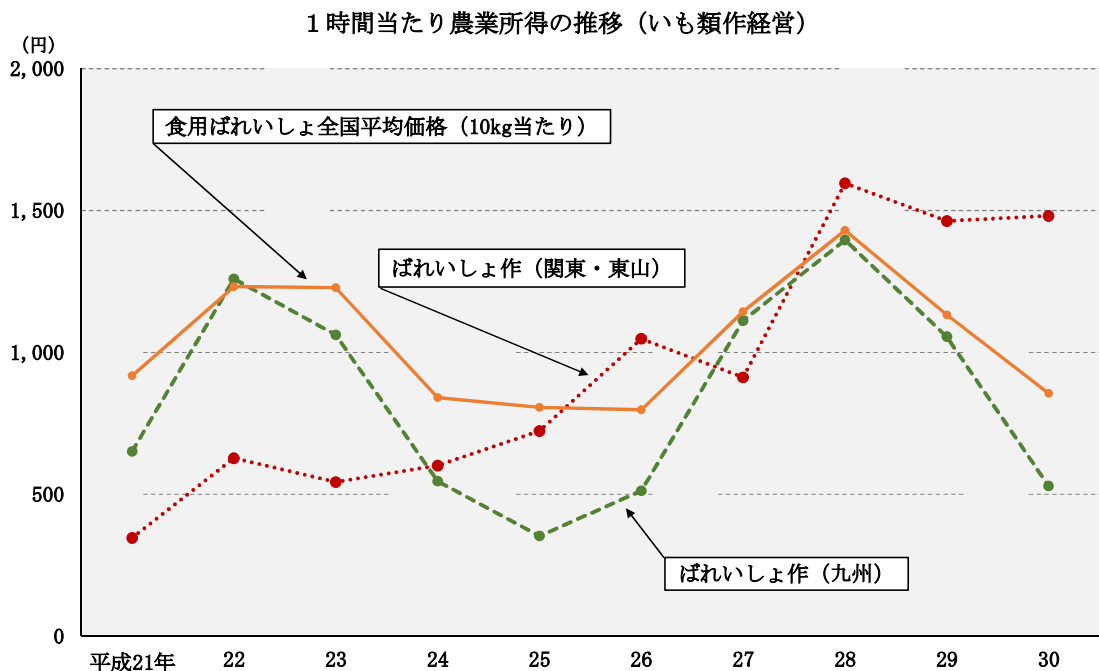
○平成25年から九州と関東・東山の1時間あたり農業所得は均衡していたが、平成30年の九州は、500円以上の低い額となっている。



資料：農業経営統計調査（営農類型別経営統計）、農作物価統計
注：いも類作を主とする経営の経営全体の数値です。

・ばれいしょ

○平成30年の九州のばれいしょの1時間当たりの農業所得を関東・東山と比較すると、1,000円近い低い額となっている。



資料：農業経営統計調査（営農類型別経営統計）、農作物価統計
注：いも類作を主とする経営の経営全体の数値です。

